

Vol.1058付録 9月1日 毎週月曜日発行

ロシアの週刊経済情報誌

ポストーク通信

【発行】株式会社 JSN

<http://www.jsn.co.jp>

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-20-12
TEL 03-3375-6430 FAX 03-3375-6846

美しくすぎるアニメファンは 日本に何を求める？

～ロシア人コスプレイヤー8人インタビュー～

「美しくすぎるロシア人コスプレイヤーが日本にやってくる!!」主催者コメント

フリープランニング(株) 代表取締役
日本コスプレ写真協会 代表 大森拓也氏 …2

来日ロシア人コスプレイヤーインタビュー



- 1.Sofia …2
- 2.Tis …3
- 3.Alina …4
- 4.Gesha …5
- 5.Frosel …6
- 6.Jannet …7
- 7.Nastya …8
- 8.Juk …10

ロシア人コスプレイヤーのナースチャさん(日本コスプレ写真協会提供)

トップニュース

国際 美しすぎるアニメファンは日本に何を求める？

～ロシア人コスプレイヤー8人インタビュー～

8月16～17日、ロシア人コスプレイヤー8人が来日し、同人誌即売会コミックマーケット(コミケ)で盛り上がる有明で、撮影会「美しすぎるロシア人コスプレイヤーが日本にやってくる!!」が開催された。主催は日本コスプレ写真協会、後援はロシア大使館及び日露協会。アニメ好きの若いロシア人たちは、長時間の出演に疲れを見せることもなく、ポーズをきめてくれた。見られることにこだわる彼女たちは、日本に何を求めているのだろうか。好きな作品やコスプレへの思い、日本への期待を語ってもらった。



撮影会の写真はJSN撮影、それ以外は日本コスプレ写真協会提供

フリープランニング(株) 代表取締役
日本コスプレ写真協会 代表

大森拓也氏

当社は芸能人のプロフィール写真撮影、貸しスタジオ、コスプレイベント企画などを通じて多くのカメラマンと交流があります。美しいモデルは多くのカメラマンにとって魅力的であり、とりわけロシア人女性の美しさは広く知られている事実です。2年前から美しいロシア人女性のコスプレイヤーを日本に招待する企画を考えていたのですが、昨年末に『美しすぎるロシア人コスプレイヤー～モスクワアニメ文化事情』(東洋書店、2013年)の著者である西田裕希さんと知り合い、一気に進めることになりました。第1回イベントが無事に開催できたことにホッとしておりますが、今後も継続したいと考えていますので応援していただけましたら幸いです。

今回の6日間の滞在期間中に1日だけ自由時間があったのですが、彼女たちはファッションやアニメが大好き

で、原宿や渋谷、秋葉原などを案内しました。ドン・キホーテでの買い物は2回行くほど好評でした。

また、読売新聞が主催する「SUGOI JAPAN」の取材を受けましたが、日本文化の海外展開が注目される昨今、ロシアにも日本好きの人がたくさんいることを皆さんに知っていただきたいと願っています。

1. Sofia

ソーニャです。年齢は17歳です。生まれはモスクワで、現在はモスクワで演劇・芸術関連の専門学校の学生をしています。中学生の頃からアニメ好きの友人たちと付き合っていて、そのうちコスプレもやるようになりました。今は具体的なコスバンド(コスプレイヤーと裏方たちからなる撮影チーム)には所属していませんが、仲の良いコスプレイヤー3～4人と一緒に撮影会やアニメフェスティバルに



ソーニャさん演じるアリババ
('マギ'より)



ソーニャさん演じる
シェリル・ノーム
(アニメ「マクロス・
フロンティア」より)

出演しています。この集まりはコスバンドに成長していくと思います。

両親は、私が中学生だった頃には面白がって、写真を知り合いに見せたりしていました。一過性の子供の遊びだと思っていたようです。でも今では、私が糸や端切れで家中を散らかすので不満もあるようです。

日本文化で関心があるのはまずは第一

にコスプレですが、日本のファッションにも興味があります。英語をほぼ自由に使えるので、英語圏のサイトからも情報を集めています。

日本に来たのは初めてです。確かに暑いですが、恐れていたほどではありません。モスクワは暑い上に空気が乾燥しているので、自動車道路沿いを歩いていると死にたくなることがあります(笑)。今日はコミケ会場にも少しだけ行ってみましたが、ものすごい数のカメラマンにひっきりなしに撮影されて驚きました。

将来は、劇場の女性用衣装の専門家になる予定です。学校では裁縫の授業があり、コスプレにも役立っています。日本のデザイン・服飾関係の学校にも興味があり、今回は見学もしました。

モスクワのアニメビジネスは年々伸びていると思います。サービスにも特に不満はありません。さらに伸びるよう期待しています。

好きなキャラクターは、今回も演じているシェリル・ノーム(アニメ「マクロス・フロンティア」)です。マクロス・フロンティアはロシアでもかなり人気があります。作中の歌は音楽的に見ても質が高く、私も大好きです。でも、日本のポップソングとロシアのポップソングは、全体として見るとどちらも似たり寄ったりかもしれません。あえて違いを言うなら、ロシアのポップ歌手は30歳以上、毛皮のコート、20cmの金色のハイヒール、スパンコールといったスタイルばかりです。日本でも似ているのかもしれませんが、感覚的には別のものになっていると思います。

2. Tis

ティスと申します。年齢は26歳です。モスクワのデザインスタジオで、(コスプレ関連ではない)デザイナー兼写真家として働いています。

5年ほど前からコスプレをやっています。はじめは単なるアニメファンだったのですが、インターネットでコスプレというものがあると知り、興味を持ちました。私はあまり裁縫が得意ではありませんでしたが、友人が助けてくれました。当時私は大学生でしたが、コスプレイヤーの年齢層は幅広いです。30歳を超えて現役の友人もいます。

モスクワでは月に1度はコスプレイベントがあります。会場はクラブやディスコではなく、コンサートホールや文化会館です。ブラザー、任天堂、パナソニック、美容室アッシュといった日本企業が面白いブースを出す大きなイベントもあります。「J-FEST」や「Hinode」といったフェスティバルです。こうしたイベントが友人たちと集まるには一番よい場になっています。

私のコスプレに両親ははじめはショックを受けましたが、そのうちに理解してくれ、今では母や祖母が裁縫を手伝ってくれます。

コスプレ以外では、日本のストリートファッション、特にロリータ・ファッションに関心があります。服を買って、それに合うウィッグやアクセサリを揃えたりしています。大学での専攻がデザインだったこともあり、日本の建築にも興味があります。日本の伝統的な様式も、未来派的な様式も、とても刺激的です。日本の自然も驚異的です。今回日本に初めて来ましたが、言葉では言い表せないような印象です。いまだに自分が日本に来られたのが信じられません。

今回、コミケを見学して、規模の大きさ、選択肢の多さに驚きました。モスクワではアニメグッズのショップが足りていません。Tokyo Boomのような店がもっと必要です。



ティスさん演じる初音ミク

ティスさんの
オリジナルキャラクター



一番好きなキャラクターは、多分クラン・クラン(アニメ「マクロス・フロンティア」)です。小さいけれど元気で、明るくて、とてもいい子です。アニメそのものを体現するようなキャラクターだと思います(笑)。マクロス・フロンティア自体が、世界設定やキャラクターの造形がとても優れていて、衣装をつくったりコスプレをしてみたくなったりするような作品です。もちろん音楽も素晴らしいですね。

3. Alina

モスクワ州コロリョフ市出身のアリーナです。大学を卒業し、今はモスクワの会社で法務関連の仕事をしています。年齢は22歳です。

コスプレはインターネットで知り合った友人に勧められて始めました。ネットは色々な趣味を持つ人と出会える場所で、私は何でも試してみるようにしていました。コスプレを試したら気に入ったので、続けることにしたわけです。友人たちとはモスクワで集まることが多いですが、3~4ヶ月に1度は別の町のイベントにも遠征に行っています。

コスプレ以外ではフィギュアスケートやローラースケート、乗馬なども好きです。インテリアデザインにも凝っています。その他、モデルのアルバイトもしています。

アニメは、主にロシア語吹き替え版を見ています。時間

がないので、他のことをやりながらだからです。ただし、重要な作品は字幕版で見るようにしています。

日本には初めて来ましたが、とても気に入りました。きっと旅行をすると楽しいと思います。ヨーロッパを旅行しても、人も建築もどこかロシアに似ています。日本は全く違う感じが面白いです。

モスクワで日本文化関連のイベントが大きくなってきて嬉しく思います。日本大使館も協力してい



アリーナさん演じる
鬼龍院皐月(アニメ「キラキラ」より)

アリーナさん演じる松岡江
(アニメ「Free!」より)



る「J-FEST」や「Hinode」です。ロシアで日本がきちんと紹介されるようになったと思います。

好きなアニメは「K」です。少し幻想的なところもある、友情についての物語です。アニメの前日譚を描いたマンガも集めています。注意深く見ないとい理解できないディテールも多く、じっくり鑑賞しています。美術がとてもきれいで、音楽も声も美しい。これは吹き替えではなく字幕で見えています(笑)。好きなキャラクターは周防尊と十束多々良です。でも全員好きです。登場人物の性格は様々ですが、みんな素敵です。「K」を観ると、たくさん笑ったり、泣いたりしてしまいます。

今回私がコスプレしているのは、最近のアニメ「キルラキル」の鬼龍院皐月です。真面目で勇ましい女性で、私の好きなキャラクターです。

4. Gesha

ゲーシャと申します。ゲイシャではなく、男性名ゲンナージーの愛称ゲーシャです。年齢は24歳、出身はボルゴグラードで、学校を卒業してから、母のいるモスクワに引っ越してきました。父は今はどうしているかわかりませんが、母は美容師です。私はフリーのヘアスタイリストとして働いています。結婚式の花嫁や、ちょっとしたおしゃれを楽しみたい人たちが顧客です。免許も技術もあり、名前も売れているので、仕事はたくさんきます。コスプレイヤーを相手に仕事をすることもあります。

友人たちと集まるのは、コスプレの出演に向けて打ち合わせをしたり練習をしたりするときです。練習する時には



自分たちでスタジオを借りるようにしています。イベントは月に1回ほどコンサートホールや文化会館で行われます。クラブ等で「アニメパーティ」も行われていますが、これは子供向けのものです。以前はコスプレイヤーの数が少なく、アニメパーティにも出ていましたが、今では本格的なコスプレイヤーは別のフォーマットのイベントに移りました。

ロシアではアニメはテレビでも放映されていますが、番組数は少なく、「ナルト」のような古い作品をたまに流すだけです。他方で、日本で放映されるとすぐさまボランティアで吹き替え版をつくるので、アクティブなファンはインターネットのSNS等を通じてそうした作品を観ています。最近では、例えば大手SNS「フコンタクチェ」で海賊版動画の取締りが厳しくなっていますが、アニメファンは営利目的で吹き替えをつくっている訳ではありませんし、そうした動画を観たファンの多くが日本からネット通販でグッズを買ったりするようになるので、海賊版問題は歯がゆいところです。SNSは、作品との出会いの場としては役に立っているのです。日本のサイトで公式の放送があることも知っていますが、日本語が分からないのでアカウントの登録が難しいです。8月初めに名古屋で「世界コスプレサミット」が開催され、今年はカーニングラード出身のロシアチームが優勝しました。私たちはロシアチームを応援するためにニコニコ動画にアカウントをつくりましたが、登録に苦労しました。アニメの公式放映サイトへのリンクを紹介してくれるのも、フェスティバル「Hinode」のサイトだけです。

アニメグッズはロシアでも多くのネット通販サイトが取り扱っていますが、かなりマージンを取っている印象です。日本での販売価格を知れば、2ヵ月ほど待ってでもeBayや日本のサイトで買って到着を待つ方がいいと思えま



ゲーシャさん演じる
リヴァイ兵長
（『進撃の巨人』より）

す。といっても、一番いいのは日本のサプライヤーがモスクワに進出してくる事です。ネット通販では、表示と違う低品質なものを送ってくる場合もあって安心できないからです。コスプレ用ウィッグやクリームも日本から買うことができます。ロシア郵便の通常の配送では2ヵ月ほどかかるのが難点です。最近はいよいよ早くなったようですが、いずれにせよ、日本に直接買いに来られればそれが一番です。

日本のファッションにも興味があります。以前、アニメフェスティバル「J-FEST」に文化服装学院がやってきて、コレクションを披露してくれました。私たちはどこで買えるのか、どうやって注文したらいいのか聞きましたが、残念ながらロシアからでは難しいとのことでした。日本のファッションと言えば、モスクワではユニクロだけです。そしてユニクロが持ってきたものはすぐに売れてしまいます。

アニメで好きな作品はたくさんあります。例えば、スタジオジブリの作品が好きで、「ハウルの動く城」の衣装はたくさん作りました。衣装のおかげでコスプレイベントでの成績も好調です(笑)。ジブリはグッズの種類が少ないのが残念です。宮崎駿のファンはコスプレヤーばかりではありません。最近「風立ちぬ」が上映されて好評でした(本誌1034号に関連記事)。

私が今回演じているのは「進撃の巨人」のリヴァイ兵長です。私はアニメの放映が始まる前から原作マンガを読んでいました。マンガの方が先に翻訳されていました。海賊版のマンガは正規版の出版が始まると削除されましたが、正規版の刊行は途中で止まってしまっています。また、まもなくアニメ版第2期の放映が始まるので楽しみにしています。当分ロシアでも「進撃の巨人」の人気は続きそうなので、衣装の出番もまだまだたくさんありそうです。

また、マンガ「天使禁猟区」や「ルードヴィッヒ革命」の作者である由貴香織里の作品も大好きです。とても独特な作風です。残念ながらロシアで販売されているマンガの種類は少ないので、友人が日本に行くときなどにお土産に買ってきてもらって集めています。最近では友人や知り合いが日本に行く機会がどんどん増えていて、とてもありがたいことです。

今回の撮影会を企画してくれた大森さんや、サポートしてくれた西田裕希さんとは信頼関係を結べたと思います。彼らのおかげで日本に来られたことに感謝しています。これからも日本に来る機会があれば嬉しいです。

九条キヨのマンガ「ZONE-00」が好きなのですが、見つからない巻があるんです。その中の弁天というキャラクターのフィギュアを探しているのですが、これも見つからない。「ポストーク通信」はビジネスマンに読まれているのですが、是非ともモスクワにもっとたくさんの日本製品を持ってきてもらいたいです！友人たちはどんどん結婚して、アニメファンの子供が育ってきています。家族ぐるみのアニメファンも増えていきますし、もっとアニ

メやアニメグッズの間口が広がればよいと思います。簡単に触れられるようになれば、偏見がなくなってもっと理解が広まります。

5. Frosel

ニックネームはフローセル、本名はヤーナです。モスクワで生まれ、育ちました。年齢は25歳です。今は製薬会社ファイザーでアナリストとして働いています。職場では特に隠していませんが、クリエイティブな趣味として理解してもらえていると思います。

もともとアニメが好きでしたが、4年前、大学4年生の時に思い立ってコスプレを始めました。両親は共に医者です。母親は心理セラピストで、裁縫が趣味だったので衣装の作り方を教えてもらいました。今回の衣装はゴム製なので注文したのですが、自分でディティールまで考えながら縫うのも好きです。仕事が忙しいので毎月とはいきませんが、イベントにもかなり参加しています。

大学で少し日本語を勉強しましたが、日本に来たのは今回が初めてです。以前からずっと来たいと思っていました。日本では驚くことばかりです。全てものが細部に至るまで、人間のために考え抜かれてつくられているように思えます。誰もが礼儀正しく、人当たりもやわらかくて素晴らしいです。ロシア人とメンタリティが違うのでしょうか、その違いが面白い。そもそも人ならば違って当たり前ですけどね。

日本からロシアにもっと色々なものを持ってきてほしいです。最近、モスクワではダイドーの自動販売機が設置され始めましたが、みんな写真を撮ったりして大人気になっています。もちろん価格は高めですが、まだ数も少ないですし、そのうち変わっていくと期待しています。丸亀製麺も人気です(本誌1055号に関連記事)。特にコス



フローセルさん演じるアスカ
(アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」より)



フローセルさん演じる銀
(アニメ「Darker than black」より)

プレイヤーたちは大好きなようで、「どこに行く?」「丸亀に行こう」となることがよくあります。

アニメビジネスをやっている方には、難しいかもしれませんが、日本からもっとコスプレ用の小道具や素材を輸入してほしいです。自分たちで用意するのは楽しいですが、難しい場合もたくさんあります。

好きなキャラクターは、アニメ「Darker than black」の銀です。初めてコスプレしたキャラクターで、風変わりで不思議な女の子です。今回演じている「新世紀エヴァンゲリオン」のアスカも好きです。とても感情表現が豊かで、派手な性格ですが、落ち込んでいるときにも人を惹きつけるものを持っています。今のところは旧作の方が好きで、今回もクラシックな方の衣装にしました。リメイク版ではこの先どうなっていくのか興味深く思っています。

6. Jannet

ジャネット、ロシア風というとジャンナです。生まれはカルガですが、今はモスクワに住んでいます。年齢は25歳です。

日本のアニメ、アニメで描かれる世界が大好きです。コスプレは4年前に始めました。初めて見たアニメは「一騎当千」で、登場人物がみな自由に生き生きとしていて、すっかり好きになりました。個人が自分の生きたいように生きるのはなかなか難しいですが、アニメのキャラクター



ジャンナさん演じるエリザ
(ゲーム「鉄拳レボリューション」より)



たちはそれをいい意味で実行しているのです。初めてのコスプレはこの作品の呂布奉先でしたが、これが驚くほどよい出来栄でした。難しいキャラクターですが、表現するのは楽しかったです。

その後、私はコスプレモデルをするようになり、ロシアのゲームメーカーや漫画家に頼まれて広告用にコスプレをするようになりました。最近では、海外からウィッグの制作を依頼されるようにもなりました。日本ではあまり他人向けにコスプレウィッグをつくる人がいないと聞いているので、そのうち日本からも注文が来るようになると思います。仲間と一緒にコスチュームも自作できるので、人に頼んで回らなくて済むのが強みです。コスプレで積んだ経験を活かして、劇場や雑誌のモデルをやることもあります。

家族は応援してくれています。初めてのコスプレの衣装は母がつくってくれました。母は精神科医で、父は自動車販売の仕事をしています。

最近のアニメは、とてもきれいだけど内容が充実したものが少し減った気がして残念です。「デスノート」や「バジリスク」のような深みのある作品が増えることを期待しています。「ラブ★コン」や「秒速5センチメートル」のような作品も素晴らしいです。ロシアには精神性の高い映画がありますが、日本人はアニメに精神を込めるのがうまいと思います。

今回の訪日では、フィギュアのようにモスクワからでも手に入るものではなく、日本のファッションを直に見てみたいと思っています。モスクワのファッションは、ヨーロッパに似ていて個性が乏しいです。少々値段が高くていいから、新しくスタイリッシュなものがほしいと思います。

7. Nastya

ナースチャです。年齢は23歳、生まれと育ちはモスクワです。銀行のコーポレート部門で口座開設業務などを行っています。職場では上司もアニメ好きです。といってもセーラームーンやキャンディ・キャンディのような古い作品です。懐かしくなって最近見返したそうで、先日は朝から「アンソニーが死んだ……」と落ち込んでいました(笑)。

私はアニメは5歳くらいの小さな頃から、「セーラームーン」、「キャンディ・キャンディ」、「グレンダイザー」などを観ていました。「にんぎょ姫」も覚えています。とても悲しいお話で、泣きながら見ていました。他には「空飛ぶゆうれい船」も好きでした。当時はただ面白いものとして見ていましたが、日本のアニメを意識して見るようになったのは15歳の頃で、「シャーマンキング」と出会ってからです。当時テレビで放映されていて、私は毎日、学校が終わると大急ぎで家に帰って見ていました。それからアニメ友達と集まるようになり、コスプレをやってみようということになりました。テレビで見た服を自分が着られることに感激しました。スカートの膨らみ具合などを工夫するのも楽しいことでした。コスプレをやっていると創造的な感覚が磨かれます。何かをつくるときにも色々なアイデアが浮かびやすくなります。

モスクワの主なアニメ・コスプレイベントを挙げるなら、春から順に Animatrix、Ichiharu、Hinode、Cha-No-Yu、Toguchi、Oni no Yoru、J-FESTなどです。Jロックフェスティバルもあります。冬は寒いですし、イベントも少なくなります。モスクワ以外の町でもたくさんのイベントがあり、先日もコブロフ(ウラジーミル州)でMikan no Yukiが開催されたばかりです。

ナースチャさん演じるホロ
（『狐と香辛料』より）



友人が時々、日本のサイトに私のコスプレ写真が載っているのを見つけて送ってくれることがありますが、日本でも見てくれる人がいるというのは驚きです。SNS「フコンタクチェ」に自分のページを持っていますが、私は自分

ではそれほどたくさんの写真を掲載している訳ではありませんしね。とても嬉しいことですが、びっくりします。

父は離婚してしまったのでいません。母は会計士をしていて、私のコスプレをはじめの頃にサポートしてくれました。母は宮崎駿のアニメ、特に「となりのトトロ」が大好きです。私が日本に行くと言ったら、何かトトロのものを買ってきてと熱心に頼まれました。実は日本に来るのは3回目です。これまでは観光で来ました。初めて来たときは、夢が実現して、感激でいっぱいになって大変でした(笑)。日本が大好きです！ その時は東京、奈良、京都、大阪、箱根とあちこちを見て回りました。2回目は東京に集中しました。今回、空港から都内に向かう電車の窓から風景を眺め、故郷に帰ってきたような嬉しさを感じました。「タダイマ」ですね。今回は自由時間で秋葉原と原宿に行きます。時間があれば神社も見たいです。

日本語については、アニメのセリフを覚えたくて独習を始め、その後、先生について半年ほどスカイプで勉強しましたが、止まってしまいました。

アニメビジネスに関しては、私たちは協同購買組織をつくる必要があると思います。私はよく友人たちと、「あみあみ」という通販サイトをチェックして気に入ったフィギュアを買っているのですが、人気商品は買うのが難しいです。先日も、リヴァイ兵長のフィギュアを狙っていたところ、販売開始から一瞬で売り切れてしまいました。モスクワの知り合いで1部屋を丸ごとフィギュア展示室にしているコレクターもいますが、そこまで揃えるのは大変なことです。もう少し買いやすくする工夫が必要です。

アニメからは色々なものをもらったので、私はアニメそのものが好きなのだと言えるかもしれません。だから一番好きなアニメを具体的に挙げるのは難しいのですが、そ

ナースチャさん演じる逢坂大河
（アニメ「とらドラ！」より）



れでも特に大切な作品と言え、**「鋼の錬金術師」**の第2期です。すっかり心を掴まれて、登場人物の運命に一喜一憂しながら見ていました。古い作品ですが、「ラブ★コン」も大好きです。とてもおかしくて温かいお話です。それから「ギルティクラウン」。とても美しい作品です。最近では「風のあすから」が素晴らしい作品で、画面の細部まで丁寧に描き込まれていて衝撃を受けました。色彩もキャラクターもとても美しいのです。背景も風景も、全てが美しい！そして物語も面白かった！宮崎駿作品も大好きです。何か一つを選ぶことなどできません。

マンガを読むのも好きです。「ナルト」、「神様はじめました」……。ロシアでは正規版のマンガビジネスがなかなか成功しません。何巻か出ると、出版社が活動を停止するのです。「鋼の錬金術師」も3巻で止まってしまいました。だから有志が翻訳して、それを読むことになるのです。商業出版ではなく、個人のためのものですね。

8. Juk

ジュークです。生まれと育ちはモスクワです。年齢は20歳で、大学でデザインを勉強しています。将来はデザイナーになる予定です。今はまだ需要がありますが、最近ではデザイナーや写真家が増えてきているので、数年後には競争が激しくなっているかもしれ

ません。私はそれでもこの道に進もうと思っています。

両親は年金受給年齢に達していますが、まだ現役で働いています。2人ともコスプレには理解を示してくれていて、最初の頃は母は裁縫を、父は小道具制作を手伝ってくれました。ロシア人は、住宅のリフォームにせよ自動車の修理にせよ、何でも自分でやります。だからコスプレも自前なのです(笑)。

日本に興味を持ったのは、友人の影響でした。友人が家族と日本に旅行してすっかり日本ファンにな



ジュークさん演じるディーヴァ
(アニメ「BLOOD+」より)

り、アニメを見るようになって、私も一緒に見たり、マンガを読んだり、しまいにはコスプレをするようになりました。5年程前のことです。

日本には今回初めて来ました。言葉にできない体験です。友人たちから聞いて、前からずっと東京に来たいと思っていました。服や靴、アクセサリや化粧品のショップを見て回ろうと思っています。モスクワではヨーロッパやロシアの流行ばかりで、アジアのスタイルを目にする機会はあまりないので楽しみです。

ロシアではアニメショップは足りないし、アニメの気もまだまだです。それでも伸びていることははっきり感じられます。去年と比べてもアニメファンは増えました。私が初めてアニメを知ったのは2001年頃でしたが、人気が大きく伸び始めたのは2年前くらいからのように思います。その時からコスプレイヤーの数も急に増えました。

一番好きなアニメは「BLOOD+」です。私の最初のアニメで、全てのキャラクターが好きです。「進撃の巨人」も好きです。今日は本屋で原作マンガを買うことができました。

(2014年8月)



ジュークさん演じる
ミカサ(「進撃の巨人」より)